



広島
8月6日

「たとえ一つの声でも、
学んだ事実に思いを込めて
伝えれば、変化をもたらすことができるは
ずです」と子ども代表（広島）

長崎
8月9日

被爆80年の原爆の日 核抑止論はフィクション

原爆投下から 80 年を迎えた「原爆の日」、8 月 6 日は広島市の平和記念公園で、9 日は長崎市の平和公園で、それぞれ式典が行われました。

広島市の平和記念式典の挨拶で、広島県の湯崎英彦知事は、抑止論とりわけ核抑止に触れ、「力の均衡による抑止は繰り返し破られてきました。なぜなら、抑止とは、あくまで頭の中で構成された概念または心理、つまりフィクション」で普遍の物理的真理ではないとし、自信過剰な指導者、突出したエゴ、高揚した民衆の圧力、あるいは誤解や錯誤により抑止は破られてきた。「人間は必ずしも抑止論、特に核抑止論が前提とする合理的判断が常に働くとは限らない」と抑止論の危うさを述べました。



湯崎英彦・広島県知事

長崎市では、被爆者でつくる合唱団「ひまわり」が、3 年ぶりに平和祈念式典に参加し、「♪もう二度と作らないで／わたしたち被爆者を／あの青い空さえ／悲しみの色」と、原爆の惨状を繰り返さないという願いを込めた曲『もう二度と』を披露しました(写真上)。



戦後80年 終戦の日 平和と反戦を次世代に語り継ぐ

終戦から 80 年。戦争を知る世代は急速に減り、記憶の継承が急がれます。昨年 10 月現在の戦前戦中生まれの約 1389 万人、総人口の 11.2% で、年に約 1 ポイントずつ減少しています。

8 月 15 日の終戦の日、政府主催の全国戦没者追悼式が日本武道館で開かれました。天皇陛下は「戦中・戦後の苦難を今後とも語り継ぎ」と記憶の継承を示す言葉を初めて加え、「平和と人々の幸せを希求し続けていくことを心から願います」と述べられました。

石破茂首相は、式辞で「今では戦争を知らない世代が大多数となった。戦争の惨禍を決して繰り返さない。進む道を二度と間違えない。あの戦争の反省と教訓を、今改めて深く胸に刻まねばならない」と述べ、13 年ぶりに「反省」の言葉が復活しました。

8.11ピースパレードin戸塚

被爆 80 年にあたる今年、戸塚区では 27 回目のピースパレードが 8 月 11 日に行われました。「核兵器廃絶と原発ゼロ社会が 1 日も早く実現することを訴える」とアピール、参加者 80 名が、戸塚駅東口から思い思いのプラカードやうちわなどを掲げて、西口の旧東海道～旭町商店街の約 2.5 キロをパレードしました。



国際紛争を助長する**武器輸出**に舵を切るのか？ 最新鋭「護衛艦」を豪州へ



日本が、憲法の平和主義を空洞化させ、
国際紛争を助長するおそれのある
殺傷能力のある護衛艦を、はじめて海外に
輸出しようとしていることがわかりました。

豪州に「もがみ」型護衛艦を輸出

オーストラリア(豪州)政府は8月5日、同国海軍が導入を計画している新型艦について、日本が提案する三菱重工業の最新鋭「もがみ」型護衛艦(FFM)を基に改良した新型FFMの共同開発を採用すると発表しました。

豪州は老朽化した戦闘艦(フリゲート艦)を新型FFM 11隻に置き換える計画で、総額100億豪ドル(約9,500億円)を見込み、11隻のうち3隻を日本で、8隻を豪州で建造するとしています。2026年に最終契約を結び、2029年に最初の納入を見込んでいます。価格交渉で最終合意となれば、殺傷能力があり、大型兵器でもある護衛艦の輸出が初めて決まることになります。

長射程ミサイルも搭載可能

新型FFMは全長142メートル、6,350トンで、レーダーに映りにくいステルス設計で、対潜水艦戦などの能力が強化されるといいます。とりわけ「もがみ」型との違いは敵基地攻撃能力を有する長射程ミサイルの搭載が可能になることです。

なしくずし的な武器輸出拡大のおそれ

日本からの兵器の輸出は、かつては憲法の平和主義にもとづき「国際紛争の助長を避ける」として、「武器輸出三原則」の下、ほぼ全面的に禁止されていました。ところが1980年代以降、次々と緩和され、2014年には安倍政権が「防衛装備移転三原則」を導入、2023年になると岸田政権が武器輸出の推進に向け、同「三

原則」とその運用指針まで改定しました。

今では、完成品の輸出も「救難・輸送・警戒・監視・掃海」の5類型に該当すれば容認されます。さらに、2024年3月の閣議決定では、イギリス、イタリアと共同開発をすすめる次期戦闘機の第三国への輸出を解禁するため、殺傷能力があっても「共同開発」の形なら閣議決定で認めるという抜け穴までつくりました。

今回の豪州への新型FFMの輸出は、それに先立つ案件となります。

疑問残す、共同開発とは何か

政府は今回、豪州の軍が使用する武器システムや通信機器を追加で搭載することが共同開発にあたりと説明しています。しかし、定義は明確ではありません。ベースとなる「もがみ型」FFMを開発したのは日本企業ですから、装備の一部を変更するだけで共同開発と位置づけることには疑問が残ります。中古の護衛艦をフィリピン、インドネシア、ベトナムの東南アジア3カ国に輸出する案も、各国の要求に応じて仕様を変更する共同開発と位置づけて輸出するのでしょうか。

三菱重工に補助金まで

政府は、新型FFMの製造企業である三菱重工に対し、同艦を輸出仕様に改修するための費用を全額補助しようとしています。

政府が2022年末に決定した「安保3文書」に基づいて新設した「防衛装備移転円滑化基金」によるものです。巨額の税金を軍需企業に注ぎ込み、もうけの後押しをすることなど許されません。



平和川柳

戦争は お上が決めて 民苦難
忘れない 大震災時 虐殺を
ノーベル賞 ねだるトランプ 自分主義

9の日宣伝

9/9(火) 17-18:00
10/9(木) 17-18:00
東戸塚駅

勉強会

9/13(土) 10-12:00
10/11(土) 10-12:00
東戸塚地区センター

ホームページも
見てね!

No.239
発行:東戸塚9条の会
045-823-9211伊藤

